

東田利町報

No.294 昭和54年9月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1日発行

町的生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康な暮らし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心



No 294

9
/ 1

《祭り…心のふるさと》

都会の人に、“ふるさと”ということばから連想されることは——と尋ねると、その答の中には、必ずと言っていいほど“祭り”という言葉があるといえます。

人間疎外が大きな問題となっている現代にあって、最近、“ふるさとづくり”“ふるさと運動”といったことばがよく言われ、具体的な運動も展開されています。

こうした中にあって、ピーピーファアラ、ピーファアラ、ドンドン……と、昔から変らぬ祭りの笛や太鼓の音は、人間が忘れかけていた何かを呼び起こしてくれる、まさに、大事な“心のふるさと”といったところでしょう。
(写真—老方鹿鳴神社祭典)

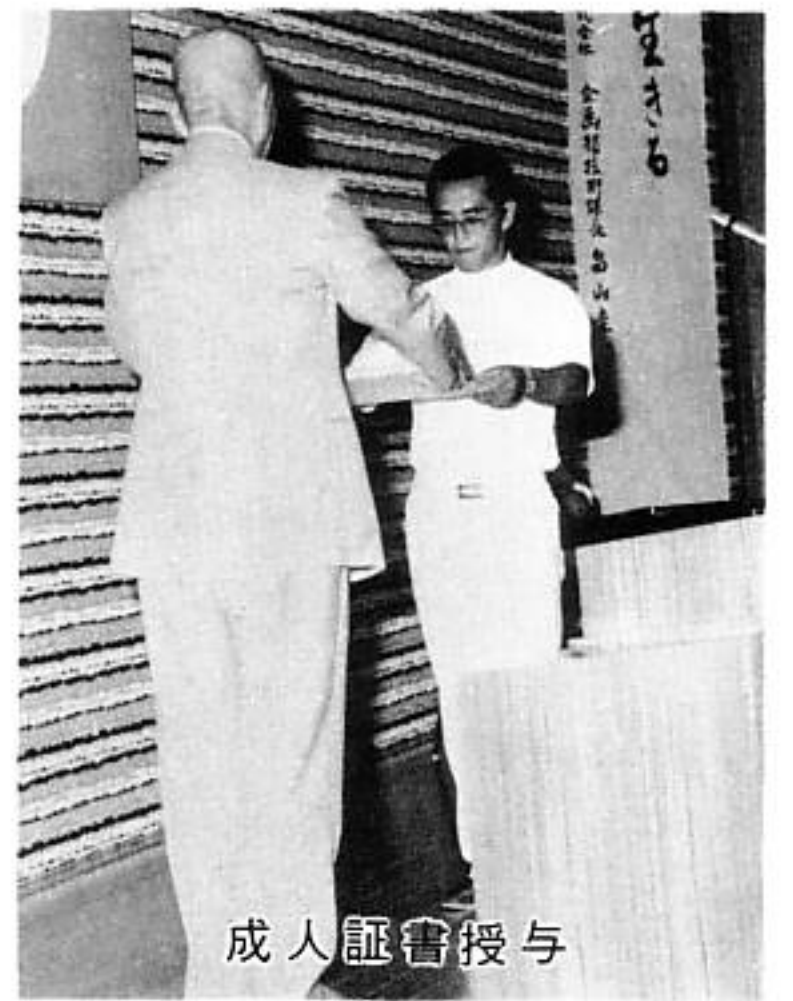
すっかり定着した夏の成人式は、今年も終戦記念日の八月十五日、町開発センターで行われました。

今年の成人式対象者は、昭和三十三年四月二日から三十四年四月一日の間に生れた人たちが百二十九名で、式典には百九名が出席、おとなとしての新たな旅立ちをしました。

出席者の中には久しぶりに里帰りした人も多く、会場のあちこちでは、何年ぶりかの再会を喜び、旧交を温め合ういつもの光景が見られました。

式典は午前九時に始まり、「君が代」斉唱のあと、新成人者一人ひとりが点呼、紹介され、代表した嶽石一人君に成人証書、小野孝悦君と小松和子さんに記念品がそれぞれ贈られました。

続いて小松町長から「…成人を迎えた皆さんに親や社会が期待するものは、国や町、家庭にある良い伝統を受け継ぎ、さらに、その伝統の上に創造を加え、自覚と志をもって自分たちの時代を造って



成人証書授与



成人おめでとうございま

ってほしいということである。長い人生において、何かの機会に立ち止まり、自分の位置を確かめ、過去をふり返り、将来を見通し、自分の人生を歩んでいってほしい…」と式辞があり、長沢議会議長、佐藤教育委員長、工藤選挙管

理委員長からお祝いのことが寄せられました。これに答えて、小野清雄君が新成人者を代表し、「…現在、私達がおかれている環境は、石油不足による省エネルギー時代、米価の据え置き、減反政策による転作、休耕な



交換パーティ

喜びと感慨を胸に

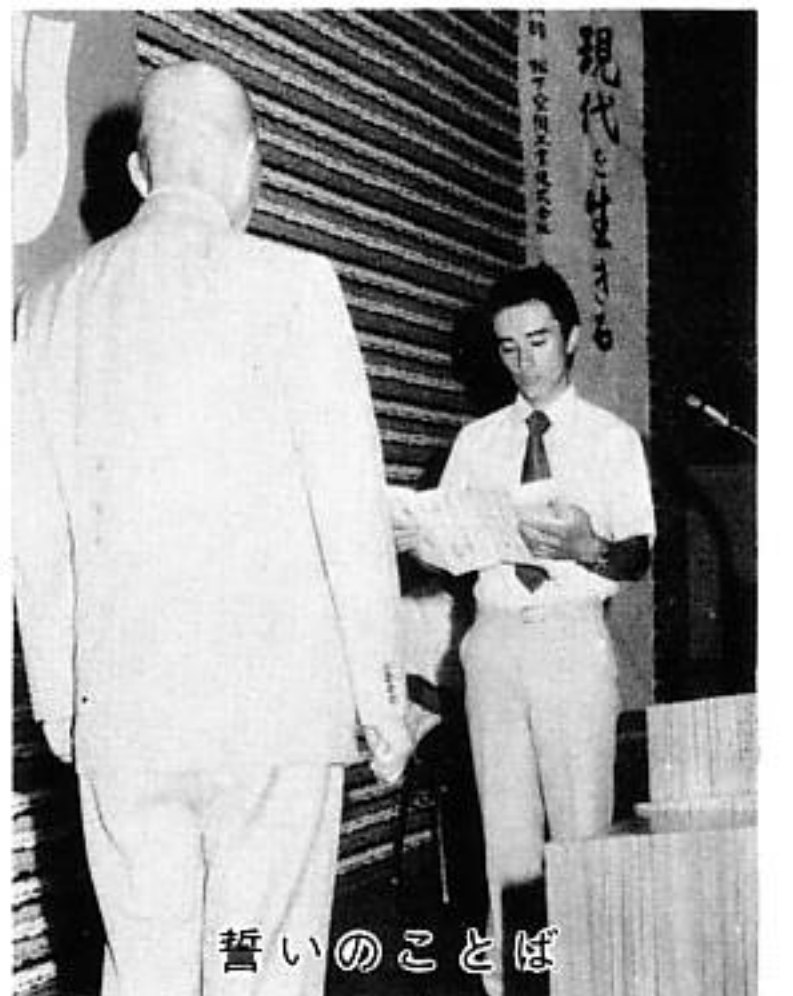
139名が大人の仲間入り

ど、これからの時代をになう私達にとつては、まさしく困難な時代であると思われる。まだ社会人一年生であり、経験豊富な諸先輩方の協力を仰ぎながら、若者らしく何かを求め、努力していく。

まだまだ未熟な私達だが、東由利町出身であることを誇りに思い、皆様の温かい御支援のもと、期待に沿えるよう精進したい…」と力強く誓いのことばを述べました。

このあと、「現代を生きる」と題して畠山圭司氏（本町老方出身、松下空調工業株式会社企画部技術課長）の記念講演があり、正午前に式はとどこおりなく終わりました。

引き続き記念写真撮影をすませた新成人者たちは、準備されたサンドイッチと牛乳をいただきながら、近況報告や中学時代の思い出話に花を咲かせ、また、「はたち」となった記念の個人写真撮影に長い列をつくり、大人の仲間入りを喜び合っていました。



誓いのことば

成人式を迎えて

はたちの抱負を聴く

係では、新しく「おとな」の仲間入りをした6人の方に「はたちの抱負」を寄稿してもらいましたので紹介します。

希望と決意を胸に

舟木 長谷山 順一



成人式を迎え、今、新成人になった事を、私は、ひとつのステツ

ブと考えています。今日まで、ともすれば甘えがちで、努力不足であった、十代の自分を反省するとともに、これからの二十代に向けての、希望と決意を胸に、頑張ろうと、新たな意欲に燃えています。

今、自分は、何かをしなればという気持ちだが、沸き上がって来ます。

私は、現在、青年会に入っており、よく地域の先輩の話や聞く機会があります。そんな時、決まって聞くことばは「今の若い人たちは、おとなしい」「意欲に乏しい」と、いう事です。自分の意見を、他人にぶつけて来ないという

事です。私は、それを聞くとビクッとしみます。私にもそのことばが、ピッタリ当てはまるような気がするからです。自分の意欲、考えが、弱くあやふやであり、他人から、ああしよう、こうしようと言われるがままに妥協してしまいう自分。私は、成人しての第一歩を、これから歩んで行きたいと思ひます。自分の目標、信念を貫く固い意志を持ち、そして、行動・実践して行く事こそ、今の自分に必要な事です。自分の意見も持たず、他人のことばを借り、さもわかったような顔をしていた自分が、ただなりゆきまかせで行動していた自分が、今さらながら恥ずかしく思ひます。

今、社会では、省エネルギーだの、公害、やれ物価だの、また、農業では、減反などと、いろんな問題が、私たちを取りまいています。それらの事に目を伏せることなく、真正面から取り組み、これから将来に向けて頑張ることが、私たち、新成人にとっての課題と思ひます。

責任と誇りをもって

小倉 遠藤 真子



成人となつて—いえ、成人になつたという実感は、まださほどあり

ません。

成人式の日に来賓の方々から祝辞をいただきました。私は、何かもつと厳しく張り詰めたものを期待していました。が、ピリピリと身体の内奥まで伝わってくるものを感じることはできませんでした。私自身はまだ成人になりきっていないというよりも、責任の重さにまだ気づいていないせいかもしれません。

成人となつて、今日からは今までと違った別の人間になるという訳でもなく、今までの私に変わりはないのです。

しかし、これからは、自分とは変わらなくても世間の風向きは変わってくるでしょう。人々の好奇心に満ちた目、冷たい目、そして時には温かい目が、私を周囲から包み込むでしょう。そんな時、私は一成人としての自覚を持って対処していかなければいけないのです。

選挙にしてもそうでしょう。私は、生涯何度選挙を経験するか数しれません。しかし、いついかなる場合でも社会を冷静に見つめ、一成人としての誇りを持って一票を投じなければなりません。

二十歳になった私は、これから、果てしなくどこまでも続く茨の線路を走る列車の乗車券を手にとって、多くの人と語り合い、意見をぶつけあい、そして手を取りあつて、一生涯下車することを許され

ずに、成人としての責任と誇りを胸に、揺られ続けなければいけないのでしょうか。

今はまだ、夢と希望を胸に詰めて駅のホームに向つて歩いている、そんな心境です。

父に負けぬ養豚家に

蔵新田 小野 一



八月十五日、私も大人の仲間入りをした。

他人事のようだった二十歳という年齢に、いざ自分もなつてみると、不思議に気持ちの持ち方が変わつてきた。

——新聞などによく出る少年A、少女Bが、実名で出てしまふ。それだけ、自分の行動や発言には責任を持たなければならぬということ。選挙権などという権利を与えられ、今までのように選挙、あるいは政治などに無関心ではいられなくなつたということ。

私は、農家の長男である。

いづれ父の後を継ぐことになるが、今のところは父と二人で共同作業をしている。たまに、意見の違いから衝突することがある。まだ十八や十九だったら自分の意見など言えないだろう。仮りに言えたとしても、父に軽くかわされただろうと思う。やはり、私が二十になつたということ、父も私を大人として扱つてく

れている。

これからは、何をするにしても、はつきりした自分の目標を持つてやつていかなければならないと思う。

私の目標は、父がここまで築いてきた養豚、現在繁殖豚二十一頭の一貫経営を、五十頭の一貫経営にすること。そして、父に負けない養豚家になることだ。

今年もそのための計画はあつたのだが、あと一歩というところでできなくなつてしまつた。しかし、三年後か、五年後かわからないが、いづれ、きつと実現しようと思つてい

努力を絶やさぬ人に

寺田 佐藤 照子



人生七十年と言われる現代、二十歳という年齢は、まだ三分の一

も生きていないにもかかわらず、世間の人からは成人として扱われます。私にとって正直なところ、やや重荷に感じています。社会に出て約二年になりますが、今だに他人を頼る様な仕事をしている自分ですから、一人前の人間として認められるのが怖い気さえるのです。

高校時代、私は漢文に興味

を持ちました。特に論語の中で覚えていたのに、こういうのがあります。

子曰、「不憤不啓、不悱不发。舉一隅、不以三隅反、則不復也。」

人生死ぬまで勉強といいますが、この論語は教えられる者の立場、勉強とは自発的に努力するものだということ、一つのことから他を類推する努力をしなければならぬと言っています。

受身の態勢で構えていても、学校時代の様に先生が教えてくれる、というものではありません。毎日が何らかの勉強となる職場の中で、成人となつた人間が、いつまでも他人をあてにしているのは良い仕事ができません。仕事に限らず、何事にも前向きな姿勢で取り組みなければならぬと思います。

それに、今しかやれない事（例えば青年会活動など）をがむしやうにこなしていくのも、人生の中で大切な勉強だと思ひます。

昭和五十四年八月十五日、多ぜいの仲間と共に成人式を迎えた事に感謝し、これから、努力を絶やさない人間になりたいと思ひます。

一日一日を大切に

荻沢 佐藤 幸輝

「成人——心や身体が育つて一人

前の大人になること、

又は、二十歳以上の人を言う」



ある辞書を引いてみると、成人についてこのように書いてありました。

私が小さい頃、自分の目に映つた二十歳の人は、とても大きく、りっぱな「おじさん」に見えました。今、私も二十歳を迎え、周囲の子どもたちから同じように見られていると思うと、正直言つて、嬉しいうような、恥ずかしいような、ちよつと複雑な心境です。

それは、二十歳となつた自分を考えてみるに、ただ生命を受けてから二十年間生き続け、身体だけが生長してきただけで、お世辞でもりっぱな一人前の大人になつたとは言えないからです。

私は、成人式を機会に、こうした今までの自分を反省し、これからは、選挙権が与えられて、酒を飲み、タバコも吸う、単なる二十歳以上の人間にならないためにも、成人証書の中にあることばのように、一日／＼を大切に、自分たちの時代を造りあげていくよう頑張りたいと思ひます。

一步一步確実に

松柴 高橋 弘子

二十歳になると、酒



やタバコが許され、選挙権も与えられて、大人の仲間入りができる、

ある程度は、自由に何でも一人で決め、行動することができます。

しかし、その行動には、十分な責任を持たなければなりません。もし、いい加減な気持ちで行動すると、相手を傷つけたり、迷惑をかけたとしても、友だちをなくすことも少なくないでしょう。それ故私は、どんな小さな事にでもちよつとした心遣いを忘れることなく、自分に正直に生き、若いんだから、苦勞は自分から進んで買い、一步一步確実に前進していきたいと思ひます。途中、壁にぶつかつてもくじけずに努力し、最後まで頑張る通すことによつて、また一つ成長するものと思ひます。

私は今まで、物事を簡単に考え、いつも後悔があとに残る生活をしてきました。しかし、成人となつたこれからは、一度失敗したことは二度とくり返さないよう、良く考え、行動するように心がけていこうと思ひます。

9月はガン征圧月間



あなたも定期検診を

御霊よ安らかに しめやかに町追悼式



諸霊よ安らかに眠れ…と追悼のことばを述べる遺子代表の菅原賢治さん

日清戦役以降の町出身戦死病没者三百二十二柱の霊を慰める昭和五十四年度の町戦没者追悼式は、遺族や来賓など約百六十名が参列し八月二十四日、町開発センターでしめやかに始まりました。

式典は午前十時に始まり、式場正面中央に、国旗と町旗をバックに色とりどりの生花に埋もるがごとく建てられた追悼の標柱を前に、君が代の斉唱につづいて戦死病没者の霊に一分間の黙とうが捧げられました。

つづいて町長が、「…皇霜移り終戦の日から三十四年を経過しましたが、今日の我が国の繁栄は、諸霊の国難に殉じた至情の上に築かれたも

のであり、我々は、その苦難を想起し、大戦から学びとった教訓を今後の我が国の物心両面の発展に資し、延いて、世界平和に貢献することこそ諸霊に對しての最大の追悼の真であらうと存じます…」と式辞を述べました。

このあと、来賓、遺族会代表、遺子代表、市郡遺族連合会長からそれぞれ追悼のことばが捧げられ、式場内のあちこちでは、うつ向き、目頭にそつとハンカチをあてる光景が見られました。

午前十一時過ぎ、冥想曲が静かに流れる中、参列者全員が献花を行ない、厳肅のうちに式を終えました。

尊い献血ありがとう

目標上回る百七十六本

八月二十四日、県の移動献血車、あかつき号が来町、大琴診療所前など町内五ヶ所で八十七名の方々から尊い血液の提供をうけ、四月と合せて今年度目標の百六十七本を上回る百七十六本の献血を達成することができました。

関係者はこの好成績に、ご協力くださった方々に心から感謝しています。

今回協力くださった方々のお名前は次のとおり。
〔大琴診療所前〕佐々木修一、度一、嶽石文弥、渡辺勝男、

小野祐喜、佐々木日出夫、畑山弘子、長谷山貞子、阿部キヤ、木島ミネ子、佐々木タケ子、畑山美喜子、鈴木博（以上十名）
〔大蔵館前〕遠藤多喜夫、遠藤雅子、佐藤亮司、佐々木悦子、長谷山美和子、阿部久、小野松雄、小野夏男、工藤倫子、佐藤真紀子、木島忠志、伊東隆、小野武雄、遠藤民一郎（以上十四名）
〔役場前〕阿部清太郎、高橋

小野健、伊東健市、阿部定男、加藤誠、小野義雄、猪股寿和、伊東正志、太田浩志、小野貞男、遠藤誠功、八島シゲ、三浦毅、小松多喜子、畠山節子、小野源一、小松五郎、村上憲定（以上二十一名）
〔農協玉支所前〕小松敏、佐藤徳市、高橋富男、佐々木雅広、佐々木義広、遠藤常雄、鎌崎芳造、小松敏子、菊地英夫、小野暢子、遠藤八郎、遠藤忠男（以上十二名）
〔本庄高校下郷分校前〕小野肇、畑山工、太田幸助、村上篤、高橋賢、佐藤浩志、小松明、佐藤貴志、横山広秋、佐藤進、小松徹、阿部清記、小野賢治、小松正人、阿部和仁、

酒飲み運転はダメ!!

最近、町内では酒飲み運転による逮捕者が続出し、県警の「飲酒運転取り締まり重点地区」という不名誉な地区になってしまいました。みんながお互いに注意し合い、家庭から、地域から飲酒運転を追放し、汚名返上に努めましょう。

町長日記

例年通り、八月十五日に成人式を行った。一般的な「成人証書」は御承知のよう、

二十歳に達したあなたは、身体健全で豊かな教養を身につけられたことを認めるとともに、良い公民としての門出を祝福するため、成人証書を授与します。——というのである。

私は、この字句にいささか飽き足りなさを感じる。

成人式の原点は、家庭にあり親子間にある。二十歳に達した感慨を親子共々、家族共々に喜び、感じ合うというところに原点がある。

それが社会的な総和となつた国民的行事が、成人式であると思う。

成人した吾子に親は素朴な喜びを持ち、我が志を受け継ぐことを期待し、更に進歩向上することを希む。

この喜び、期待、希みが国民全体のものとして表現されるのが成人式である。

本年の成人式該当者は百三十九名、その内百十一名が出席した。都市には見られない出席率である。出席

したくとも出席出来なかった人もあろう。反面、成人式を否定的な人もいる。満二十歳に何んの意味があるか、式という集会に何の価値があるのか——都市の知識青年に多い。

こういう人達は、社会の連帯の大切さを知らない。社会の連帯の中で個人が生きていくという認識をまだ持っていない。

本町の成人証書は、あなたに成人に達しました。成人の実感をどう受けとめていますか。今日からは成人としての人生を一歩ずつ歩いて行くことになりま。一日一日を大切に、良い伝統は受け継いで、さらに優れた創造を加えて、あなた達の時代をつくってください。そういう願いをこめた今日の成人式を、何時の日にか、鮮かに憶い出されることを期待して成人証書をお渡しします。

親の心の総和は、この様なことばになるのではないだろうか。

宿小カップ連大活躍

石綿君が二種目制す



賞状を手に喜びの宿小児童と先生

第十一回本荘市由利郡小・中学校水泳大会は八月二十四日、本荘農村勤労福祉センタープールで行われ、小学校の部に参加した本町宿小の石綿伸郎君が、五年男子一〇〇メートル自由型、五〇メートル自由型の二種目を制したほか、六年女子も上位入賞を果たし、東由利に宿小カップありの名をあげる大活躍をしました。

ちの黒く日焼けした顔には、入賞の喜びとともに、やれやれという大きな自信があふれていました。

成績は次のとおりです。

〈五年男子一〇〇メートル自由型〉

・一位 石綿伸郎（一分四十秒一）

・五年男子五〇メートル自由型

・一位 石綿伸郎（四十二秒〇）

〈六年女子五〇メートル自由型〉

・三位 佐々木ひろえ（四十七秒七）

・六位 佐々木真由美（四十二秒五）

〈女子二〇〇メートルリレー〉

・三位 佐々木ひろえ、佐々木真由美、小野邦子、佐々木由美子（二分五十九秒九）

賞状を手にした子どもたち

次のような光景を目撃されたことはありませんか。

お年寄りが無理な横断をしていて、車が急ブレーキをかけて止まると、老人はステッキをふり上げて運転手に怒鳴っている。極端な例かもしれませんが、老人特有の心理に裏打ちされたお年寄り独特の「交通作法」。

交通ルールと

お年寄りの心理

変化する交通状況
に対応できないケースが目立ちます

お年寄りは家にいることが多いため、交通ルールをはじめ「交通環境」の変化を知る機会が少なく、また、老人の頭の中は、昔の記憶が大半を占め、交通量の多くなった現在の状況を実感としてつかみにくい心理状態にあります。



体力や運動機能の衰えにもかかわらず、いつまでも若い気持ちでいることが多い

の一端をかい間見る思いがします。

老人は、子どもとともに道路交通上は、弱い立場にあります。交通事故による死者のうち、子どもと老人が多いのもそのためです。老人の交通事故を防ぐには、ドライバーのみなさんも、交通ルールについてのお年寄りの心理を心得ておく必要があります。

いけないところで実行してしまふようなことがあります。

九月十五日～二十一日は、老人福祉週間です。ドライバーのみなさんは、お年寄りの姿を見かけたときは、くれぐれも注意し、社会の発展に貢献されてきたおじいちゃん、おばあちゃんを、交通事故の犠牲者にしないようにしたいものです。



年をとると、当然、体力をはじめ運動・感覚機能が低下しますが、本人はまだまだ若いつもりであり、この「意識と現実」のギャップが事故を招きやすくしています。

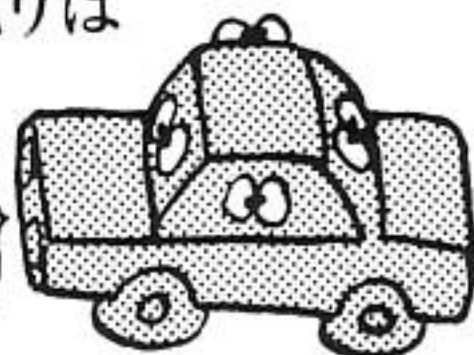
時に、身勝手と思えるような行動をとることがあります

基本的な交通ルールも、断片的にしか知らないことが多く、たとえば「手を上げて道路を渡ろう」ということばだけを知っていて、横断しては

安全運転のポイント

運転者の目の配りは

{ 4・3・2・1 }
前・後・右・左



一滴

ある農家のできごと。
農繁期でネコの手も借りたほどの忙しいとき、その家の老人は何かの役に立ちたいと田んぼに出て行ったのですが、「邪魔になるから、引ッ込んで」といわれ、明るく朝、自殺を試みたという事です。

「何もしないで、ジツとしていけばいいのよ」ということばぐらい、お年寄りにとって残酷なことばはありません。

のけ者にされないこと、つまり、自分は役に立つ存在であるという自信と、自分のことは自分でやれるという気負いが、日々お年寄りの心の張り、生きるバネになっているのです。

九月十五日は「敬老の日」。また、この日から一週間は「老人福祉週間」です。家庭では、この機会におじいちゃん・おばあちゃんの長寿をお祝いするとともに、お年寄りの役割分担をみんなで考えてみてはどうでしょう。お年寄りは自分の役割を通して、家族との接点を持ち、生きがいを見いだしていくのです。

子供とお年寄りを守ろう
秋の全国交通安全運動

と豊かな情操を

八塩で「少年自然教室」開催

町内各小学校の六年生を対象（自主参加）とした「少年自然教室」が、去る七月二十六日から二十八日の三日間、いこいの森をベースキャンプに八塩一帯で行われました。

これは、大自然の中で、規律ある中にも楽しい団体生活を通して子どもたちに、創造力と豊かな情操を身につけさせよう——と、町公民館が主催して昭和五十二年から行っているものです。

教室には六校から六十七名（男三十一名、女三十六名）が参加したほか、教育長、公民館長以下関係職員、それに各校の先生方も参加して子どもたちの世話にあたりました。

「もうすぐ、もうすぐ」の声に励まされ、息を切らしながら初めて登った八塩山。眺望展ける頂上での昼食。九十一歳でなお元気な「むかし語りおじいさん」畠山子之吉翁（大吹川）のむかし話。初めて炊く飯ごう飯。初めての



町最高峰の八塩山頂上を目指し元気いっぱい



赤々と燃えるファイヤーの周りでは、ともに相談し考えたスタンツが発表され、明るいうちにもたちの歓声が夜の八塩に響いていた



自然の植物を知ること大切な勉強

秋田県勤労青少年福祉推進協議会では、会員相互の団結と資質の向上を図る目的で、次により「シンボルマーク」を募集しています。奪って応募してください。

・募集対象
勤労青少年の福祉に理解ある方であればどなたでも。

・作品要領
出品点および作品のサイズには制限なし。作品には採色するか、または、色採を明示すること。説明の必要がある場合はその旨記述すること。

・締め切り
昭和五十四年十二月末日

・送付先
秋田市山王四丁目一ノ一

県勤労青少年福祉推進協議会シンボルマーク募集

工 事 発 注 状 況	
7月21日～8月20日	
◎林道ボツメキ線開設工事 (下松台地内)	請負業者 日本舗道(株) 仙台支店
・工事費 二、五〇〇千円	
・工事内容 延長八六六メートル	
・幅員四・〇メートル	
・請負業者 柳沢建設	
・工事期限 十一月三十日	
◎林道軽井沢線舗装工事 (桃台地内)	
・工事費 八、九五〇千円	
・工事内容 延長五〇〇メートル	
◎島宮線農道整備工事 (宮ノ前地内)	請負業者 村上建設
・工事費 一〇、二〇〇千円	
・工事内容 延長四四九メートル	
・幅員五・〇メートル	
・請負業者 村上建設	
・工事期限 十月十六日	

秋田県産業労働部労政課内 秋田県勤労青少年福祉推進協議会事務局宛

郵送によるものとするが、封筒または葉書に住所、氏名、職業を明示すること。

・入賞
入賞一人、佳作二人。

歌会始のお題は「桜」
締め切りは10月11日

昭和五十五年歌会始のお題は「桜」と定められました。(花木の桜ですが、花と詠むことはふさわしくありません)

◎詠進歌は、自作の歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。

◎用紙は、半紙(習字用の半紙(白紙)がよい。)とし、毛筆で自書してください。(病気等で自書できない場合には、他人が代筆しても差し

電話異動のお知らせ

東由利電報電話局

加入者名	電話番号	設置場所	異動種類
小野倉蔵	3802	新町新	設
小松栄太郎(砕石)	2163	茂沢口	〃
小倉児童館	3612	小倉	〃(ピンク)
麻生清一	2588	五海保	新設
鈴木健一	3611	柴倉	〃(ピンク)
村上辰蔵	3814	五海保	〃
小野良和	3617	館合新田	〃(ピンク)
菊地金治郎	2045	下小路	転出
渡辺昭一	2282	泡の淵	〃
東由利チップ工場(社宅)	3216	舟木	〃
佐藤清一	3804	袖山	改番
東由利町火葬場	3619	根城	〃(ピンク)
佐藤銀一郎	2471	田代	〃
岩井ミワ	3616	蔵新田	〃(ピンク)
伊東貞蔵	2475	新町	〃
遠藤太郎吉	3810	祝沢	〃
工藤市郎平	2353	高村	〃
伊東万吉	2375	〃	〃
工藤好男	3028	〃	〃
佐藤直温	3384	横渡	承継
畑山司	3838	下吹	承継・撤去
畑山昭一	2587	島	承継
佐藤与一	2738	向田	〃
大日向喜美蔵	3570	蔵	譲受
小松歩	2096	山崎	〃
藤丸サダミ	3124	舟木	撤去
内野喜栄	2883	館西	〃
大日向芳男	3444	舟打場	〃
渡辺久一	略	下小路	廃止(赤)
中西蔵之助	略	下通	〃(〃)
小松真悦	略	上通	新設(赤)
笹本幸	略	蔵	〃(〃)

(54年8月8日現在)

創造力



うまく炊けたかな……初めて
たく飯ご飯に、いささか心配

テント泊。暗い夜空に赤々と燃え立つキャンプファイヤー。等々――。

最終日の二十八日は、未明から強い雨に見舞われ、朝食前に解散するというハプニングも起きましたが、この二泊三日という短期間での共同生活は、子どもたちに強い友情の絆を生み出し、様々な体験は、楽しい大きな思い出となつて小さな胸の奥に刻み込まれたようでした。

今晚のメニューはカレーライスに野菜サラダ……多少こぼれつつも、自分たちで炊いたごはんの味は格別



支えありませんが、代筆の場合は、すべてその理由を書いた別の紙を添えてください。

◎書式は、半紙を二つ折りにし、開いて右半面にお題と歌、左半面に郵便番号、住所、氏名(本名、ふりがなつき)、生年月日及び職業を書いてください。

◎締め切り 54年10月11日(当日消印有効)

◎郵便のあて先 〒100東京都千代田区千代田 一番一号 宮内庁とし、封筒に「詠進歌」と書き添えてください。詠進歌は、小さく折って封入しても差し支えありません。

◎以上について疑問があれば、直接、宮内庁式部職あてに、郵便番号、住所、氏名を書き、返信用切手(五十円)をはった封筒を添えて、九月末日までに問い合わせてください。

行方不明者・家出人をさがす相談所開設

警察では九月中、家出人や行方不明者をさがす相談所を開きますのでお気軽においでください。

なお、警察署には、県内はじめ全国各地で死亡された方で、まだ身元のわからない方の写真、持物を記録したものを準備しています。

・相談日 九月一日～三十日

・場所 本庄警察署刑事課

◎その他 配達日指定は同時に午前と午後の指定ができます。電報の発信は一一五とダイヤルしてください。

割り引きになる発信日									
十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
指 定 配 達 日									
付									
◎十日前から受									
電報は希望する配達日の十日前から受け付けます。									
◎百五十円の割引									
予約受付のお祝い電報は、図のようにお客様が指定する配達日の三日以前にお打ちになりますと、一通ごとに百五十円の割引となります。(お悔み電報も同じです)									

電報発信のご案内
本庄電報電話局

お友だちや、ご親戚の方々に近々祝電をと思っていまいませんか。

お祝い電報は心のこもった電文をお届けしたいものです。当日になってあわてるよりも、早目に予約発信をしておいたらいかがでしょう。

予約発信は次のような取り扱いになっていきますので、どうぞご利用ください。

◎十日前から受

電報は希望する配達日の十日前から受け付けます。

◎百五十円の割引

予約受付のお祝い電報は、図のようにお客様が指定する配達日の三日以前にお打ちになりますと、一通ごとに百五十円の割引となります。(お悔み電報も同じです)

